第５回　生駒市総合計画審議会第三部会

１　日　時　平成２６年２月３日（月）１４：１５～

２　場　所　生駒市役所　４階　４０１・４０２会議室

３　出席者

（委　員）　　加藤委員、竹内委員、生川委員

（事務局）　　西川企画政策課長、岡村企画政策課企画係長　加納企画政策課係員

４　欠席者　　梶井委員、室井委員

５　議事内容

（１）各分野の検証

①Ｎｏ．２３１　生涯学習

【加藤部会長】　　計画案について御意見をいただきたいと思います。

【竹内委員】　　現状と課題において、過去やってきた５年間とこれからのまた４年間というのは、大分違うと思う。違うというのは、今までの過去の数年間というのは、団塊の世代がちょうど生涯学習の分野に入ってきたが、その方たちが次の４年間に向かっていくのはかなり違いがあると思う。１つは、寿大学にしても、中身が変わってくるだろうと思うし、それから、いろんな意味で図書館をかなり変えていこうということでされていると思うが、もう少し先の像が見えてほしいなという気がする。図書館が変わってきていることはよく分かるが、今求めている団塊の世代というのは、自分を楽しむということも非常に考えているが、非常に社会に対して何か貢献していきたいとか、そういう意欲に燃えている人と同時に、非常に、団塊の世代というのは、格好よく過ごしたいというのがある。そういうものを満たされるものの像みたいなものが、次の４年間でそういうものがどんなにお考えになっているのかがちょっと見えてこない。高齢者への本の宅配事業についても、私は、代官山でＴＳＵＴＡＹＡさんの新しい図書館を見てきたが、実際には有料図書館みたいなものだったが、非常に楽しかった。図書館というのは、物を借りてくるだけの作業だったら、図書館というのはもったいないなと思う。１日あそこでずっといろんな本を読

みたいなと思っても、なかなか楽しく読める雰囲気じゃない。カフェでもありながらとか、あるいは勉強仲間とそこで交流できるとか、そういう要素がもうちょっとあってもいいんじゃないかなと思う。

【加藤部会長】　今の御質問は、さらに今後の４年というのは、団塊の世代の人たちにとって、より楽しめる図書館づくりをどのように工夫されているのかという、御計画はどうなっているのかということ。

【担当課】　いろいろ計画の方を持っており、昨年から、ビブリオバトル、知的書評合戦ということで、これは学生さんから始まった、大学から始まった運動だが、それを始めており、ビブリオ倶楽部が立ち上がった。また、図書館で婚活ということで、婚活のようなこともできたし、楽しいなと思う場を目指すというのが１つ。実際、ビブリオ倶楽部の方には年配の方々もお越しになっていただいており、これが他市とは違うなと感じているので、そういう方々ももっと入っていただきたいと思っている。

まず、思っていらっしゃるような高齢の方々にということについては、武雄市のことをおっしゃっていただいたように、武雄もいろんな面でサンプルにしたいと思っているが、これは武雄の宅配事業ではなく、ボランティアの方を募り、来館困難な高齢者の方のところへお届けいただけたらと考えているが、このボランティアの方も、主に高齢の方々の、本がお好きで、本と人とをつなぐというようなことを楽しいと思っていらっしゃる方にぜひ御協力願いたいなと考えている事業であるので、１つは、積極的に、ただ運ばれてくるのを待つ方の高齢者ではなく、そういうかかわっていただく高齢の方々にということも考えている。

また、生駒駅前図書室の方には、読書カフェを設ける予定になっている。これが４月に開室するので、そのような場を通じて、高齢者、異世代交流と呼んでおり、高齢者間、あるいは、駅前では、乳幼児を連れた保護者の方々にも積極的に来ていただける施設、来やすい施設というのを目指している。

指定管理者のことをおっしゃっていただいたが、図書館については全て直営ということが生駒市の方では考えており、図書館５館は貸し部屋の方も全て併設施設なので、その貸し部屋の方は指定管理者の方にお願いしているが、今も全て図書館は市の直営でやっている。

【加藤部会長】　来館困難な高齢者への本の宅配がボランティアであるということだが、こういう困難な高齢者と高齢者のボランティアとをどう結びつけて、自宅まで行くので確

かな情報と確かなことのコミュニケーション、とても大事になってくるが、こういったところ辺はどういう把握をされているのか。

【担当課】　　これは２８年度から全市的に広がるように計画しており、２７年度で本館の方で始めたいと考えているので、来年度はまだ調査の段階だが、鹿ノ台の図書室の方で、やはり細やかなサービスがお互いできるという地域柄であるので、これは２５年度から既に始めている。そういうプライバシーのこととか御本人様方の御意向の方を最大限生かしてということで始めている。他市でされているところで、そういったいろんなことの問題、課題とかも聞いてきているので、それと生駒市の方とで調整させていけたらと考えている。実際は、ボランティアに行ってもいいよという方々は若干いらっしゃるが、来てくださいという方の方が実は少なかった。ちょっとその辺が意外だなというのがあるので、どういう形でというところの方にお願いするかが今後の課題である。

これが２７、２８年度となっているのは、来年度は、音訳、耳で楽しむ本の会ということで、来館困難な方々については、本をまず読むという、体力とか目の衰えとかのことがあるので、持っていくのとは別に、もう１つのサービスとして、自分で読むのはちょっとしんどいかなとなってきても、耳から聞くことは十分楽しんでいただけるので、音訳の技術を生かしてそのような活動の方をするというのが来年の主な課題と考えている。今、音訳講座を受けていらっしゃった方々の中からボランティアを募り、来年は、そういう方々へ向けてのもう一歩進んだ講座を行うとともに、実践の方に入っていきたい。これについては、もちろん受ける側も高齢者を主に想定しているが、もちろん、ボランティアとして、そちらにも、高齢者の方に、ぜひかかわっていただきたいと考えている。

【加藤部会長】　　じゃ、そのボランティアのなり手がたくさんあって、来てほしいという人が少ないということだが、こういったことをやっていってボランティアを募るというのは、図書館がみずから募っていかれるということで今後されて、ボランティア登録というのは図書館でやっておられるのか。

【担当課】　　その方向で考えている。ただ、今、大々的に広報をしていないのは、まず、鹿ノ台地区の方で、自治会の方々に回したり、そういう障がい者の団体さんの方にチラシをお願いしたりということで、地域の中でどういったような反応、課題が出てくるかというのを今見ている段階である。全市的な周知というのは、今申し上げたように、２８年度までの課題として考えていきたいと思っている。

【加藤部会長】　　他市もやっていて、モデル的にやってみて、本当にうまくいくのかど

うかというのをちゃんと評価した上で進めるということの取り組みであるという？

【担当課】　　はい、そうです。

【加藤部会長】　　４年間の取り組み①２で、いこま寿大学のＯＢ会を活用して支援しますという、これはこの間も言っていただいて、せっかくたくさんの卒業生がいて、どうＯＢ会を活用するかということだが、これも、いつも言っているが、具体的にコーディネーター役の人がいなかったらうまく回らないとなってくる。課題があっても、そこで中心になる窓口がいて、そこでうまく需要と供給を回していかないといけないが、そのコーディネーター役というのは、これはどういう形で確保されているのか、それはどうなのか。

【担当課】　　寿大学のＯＢの方は、あくまで、大学の学生、在学中であっても、自主的、自発的な活動に取り組んでいただくという大前提にしていただいており、今のＯＢ会も、自主的、自発での活動を大前提として実施をしていただいている。あと、来年度には寿大学に限らず、団塊の世代を中心とした、もう少し、６０を超えて現役を引退された方々を対象にそういう地域でのゼミのガイダンスのようなものを開設して、全市的にこういういろんな活動、環境であったりいろんなボランティア活動をしている担当課の方のＰＲをさせていただいて、関心を持っていただくような形を進めていこうと思っている。

コーディネーターという形での、今、そこまでの具体的な検討は進めてはいないが、その研修及び地域レベルのガイダンスのようなものの中に、今まで市民活動等でやっていただいていたコーディネーターの方にファシリテーター的な役割をお受けいただいて、講座の中で進めていきたいなと考えている。

【加藤部会長】　　１人そういう方が配置されると、回っていく。実際にはやらないけども、やりたいよという人と欲しいよという人をうまく結びつけていただける。そうしたら、ちゃんと、ある程度キャッチしながら、ある程度必要なものに振り分けられるということなので、コーディネーター、とても大事な役割なので、機能していただいて、この人に言ったらいいよという形で窓口をきっちりすれば、ボランティアがしたいということで結びついていけるという可能性もあるし、実際にやってみて、結果はどうやったかというとこら辺も見えてくるかなと思うので、ぜひそれは進めていただければと思う。

人材バンクへの登録というのは、ボランティアとは違うのか。

【担当課】　　人材バンクとは、いろんな活動、講座とかを受けておられた方が、自分の得た知識を還元していこうというような形で、具体的に自主学習グループの講師の先生とかが自主的にグループを作られて、その方々の講師の方で、ほかにもそういう知識の得た

ものを提供したいという方が人材バンクに登録してくださっている。ボランティアという基本的な考え方としては、原則は無償だが、若干、有償での人材バンクの登録という形の方もいらっしゃる、無償の方もいらっしゃるのが現実。

【加藤部会長】　　シルバー人材バンクと考えていいのか。

【担当課】　　人材バンク自体は、年齢制限等がなく、極端にお若い方であるとか、あるいはグループの登録というのがあり、いろんな例えばマジックをグループで、サークルで作ってなさっておられる方がいろんな施設へあるいは学校に慰問に行って、自分たちの発表の場と楽しんでいただけるような機会を設けるという形なので、シルバーとは違う形となる。

【加藤部会長】　　この人材バンクに登録しておいても、コーディネーターの人が、この人、こういうとこに行ってもらいますよという形で、先ほどのボランティアの話とリンクできるのか。

【担当課】　　人材バンク自体は、市の方で橋渡しをさせていただいて、こういったことを講座でやりたいけどとか、グループで作られた方が御相談に市の方へいらっしゃる。その場合に、こういう方がいらっしゃいますよというので講師の先生を御紹介するような形をとっている。

２月１日に正式オープンになったふるさとミュージアム、郷土資料館の方でもボランティアを募集してもらっており、今現在、７名様の登録をしていただいた。その方々は、ふるさとミュージアムの施設の中で、いろんな子どもたちの体験学習、勾玉づくりとか土笛とか､子どもたちのそういう体験学習をするお手伝いをしていただくような形であったり、施設の案内をしていただくようなボランティアという形で活動の方を御協力いただいている。

【加藤部会長】　　このまちづくりアニメーターというのはどういうものなのか。

【担当課】　　アニメーター自身は、学習相談という形で以前まで開催をしており、奈良県でアニメーターの養成講座というボランティアの養成講座があった。そのＯＢの方が自主的に集まっていただいていたが、今現在、そういうグループを組んで活動というのはなさっておられないような現状。個別に、例えばいろんな大きい大会とか行事のときに要点筆記とかで活動の方をしていただいており、そういう行事があったときにもこういう形で入っていただいた。

【加藤部会長】　　ぱっと見たときに、人材バンクがあって、アニメーターがあってと、

ちょっとその流れが分かりにくい。どういう生涯の中のボランティア活動がいろいろあるのかという位置づけを図式化していただいたら、より市民には分かりやすいなというのと、ある程度コーディネーターが作られるのであれば、この人に言っていってねという場合と、そうでなくて、これはこういうシステムですよとして言えるというのが分かればいいなと思う。少しそこのところの修正点を書き加えていただくというのが分かりやすいかなと思うのと、あと、今後、今、ミュージアムのボランティアができたということは、これは、また、広報とかで、こういうボランティアをやっていただいていますという、そういう目につくようなことをやっていただいたら、やってみようかなと思うような人がいて、これはどういうときにどう言っていったらいいんだろうということでまた結びついていけば、より広がるところもあるかなと思う。

【生川委員】　　行政の４年間の主な取り組みの①５に、子どもの健やかな成長の糧となるように子どもの読書活動を推進しますと書いてあるが、学校の方でも、朝読といって、朝、５分ぐらい、１０分ぐらい、音楽を流して読書とかをさせたりするが、今の子は、パソコンとか使っているので、漢字が書けない。なまじ電子辞書とかで、書籍も、今、電子書籍になってきているので、見るだけという感じで、全く漢字が書けないので、やっぱり日本人として漢字が書けないと恥ずかしいので、実際に文章とかそういう書かせるような指導というか、そういう取り組みとか、今後そういうのはないのか。

【担当課】　　今、具体的に予定はないが、また参考にさせていただきたいなというと、やはり、まず、読む力から始まって、読む習慣というところに今まで力を入れてきた。２２年度に子ども読書活動推進計画ができ、５年間でブックリストを作って配付して、そこから読んでもらって、また、あるいは学校図書館司書さんが２３年度に全校配置になりということで、一歩一歩積み重ねているところで、またそういう御意見もいただきながら進めていきたいと考えている。

②Ｎｏ．２３２　青少年

【加藤部会長】　　この計画案につきまして御意見をいただきたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

【竹内委員】　　ここの問題については、今まで、前回の４年間のところで出てこなかったことの中で、引きこもりやニートとかに対して、かなり今回は具体的に出てきている。これは、過去５年間ぐらい表面化してきているのか。ここらあたりの実態というのはどう

なっているのか。それに対して具体的にどういう対策をしていかれるのかという、この流れが分からない。青少年というのは、中学から大学までですね。

【加藤部会長】　　３９までですかね。

【竹内委員】　　だから、生涯学習というのは物すごく幅が広いので、割合、縦と横の流れがなかなか見えないところがある。

【加藤部会長】　　どのぐらいの人口というか、どのぐらいの把握数というのは、今、生駒であるのかというのは？

【担当課】　　人数的な把握というのは、かなり難しい。というのは、やはり、引きこもりとかの御家庭の方で、逆に伏せておられるという形もいらっしゃるので、実際の数値的な部分はかなり難しいのが現状だと思う。私どもの青少年の方で、ニート、引きこもりの方で、２つの団体さんに２５年度から無料相談会を開設させていただき、専門的にサポートセンターという２つの施設があり、そちらが、毎週１回、交互に相談業務を受けると。当然、プライバシーが大きく影響してくるので、お問い合わせに対して御相談していただくような予約をとっていただくとか、こちらに問い合わせもあるが、直接、施設の方にお問い合わせいただくケースもあるので、その相談件数というのは、実は昨年まで月に１回程度しか開設していなかった状況だが、かなり利用が多くなっており、例えば昨年では２機関で２４年度は１回ペースで４７件だったが、２５年度の１１月末までで相談総数で８２件ということで、やはり、そういう相談の機会を設けることによって、御相談の件数も増えてきているんじゃないかなと思っている。

【加藤部会長】　　これ、リピートですか。リピートというか、延べですよね。

【担当課】　　はい、延べです。

【加藤部会長】　　実質、何件ですか。何人来て何件ですか。

【担当課】　　実質は、やっぱり、同じようなというか、お一人の方がこれは大分長いスパンかかってしまうので、今ちょっと手元にはないが、相談をしている施設の方の担当者の方に伺っていたら、やっぱり毎月１回は必ず御相談に同じ方がいらっしゃって、少しずつそういうケアの方をしていただくとは聞いている。

【加藤部会長】　　これ、２団体というのは、ＮＰＯか何かでしょうか。それとも、親の会とか、そういうセルフヘルプ的なところなんでしょうか。

【担当課】　　なら若者サポートステーション､それと若者サポートステーションやまと、この２機関でそういう専門の就業の体験であるとかそういうことをなさっておられる方と

か、施設の方じゃなくて、実際に御自宅の方に行って御相談を聞かれるというような形で対応をしていただいている。

【加藤部会長】　　引きこもりで、精神的な、メンタル的なとこら辺の問題というのをお持ちの人がいてて、精神保健と連携をしないと解決できないと思う。そういう多機関で一緒になって連携しながら、なるべく引きこもりの人を外に出ていただくということの試みというのは、今のところはなされていないのか。

【担当課】　　今おっしゃっていただいたように、精神疾患の絡みとか医療的なサポートというものについては、担当課では健康課に当たる。あと、そういう年齢層によっても、不登校の場合だと教育指導課であるとか、いろんな窓口担当課が別々のシステムになっているので、個々のケース、事例に対しては各課と関係機関を含めて連携をとっており、個人の情報に差し障りないという形で、連携の方は図っている。

【加藤部会長】　　またどこかのソーシャルデザインの本で、どこか地域で、やっぱり、引きこもっていた人に対して就業をうまくサポートしていったら、外に出られて働けるようになっていった率が高いという、成功した町があった。だから、何かやっぱり機会がないから外に出られないというような人たちをどう手助けするかということであれば、月１回というよりは、もう少し増やしたほうが。

【担当課】　　今申し上げた月１回は２４年度までで、２５年度からは週１回。

【加藤部会長】　　何かやっぱりそういう形で外に出られる機会を作ってあげて、場合によったら、そういう多機関も連携しながら、自立という意味なので、自立の中でどう支援していったらいいかという。もう早く早くにやっていかないと、どんどんやっぱり機会を失っていくというか、チャンスがなくなる、就職する先がなくなるという。やっぱりそういう取り組みで、しかもこういう実績が出たということも出ていけば、よりみんなが行ってみようかな、ここに相談したら何かいけそうという、皆さんやっぱりどこか求めておられると思うので、ぜひ成功させていただきたいと思う。

【担当課】　　なら若者サポートステーションの方の機関については、職場見学会とか就労体験とか、そういう機会も設けていただき、これに御相談を受けながら、様子を見ながら、そこの実際に体験をしていただくというお声かけは今進めていただいている。

【加藤部会長】　　そのほかに、市民１人でできること、あるいは２人でできることということで、子ども会組織を充実させる、これはどういうことを？

【担当課】　　子ども会さんの加入がなかなか難しいところは、子ども会さん自身の課題

であるし、市としてのどういう支援ができるかという課題になっていると。その中で、御相談を受けながら、毎年、市子ども会連絡協議会の日として、子ども会と１１月に開催している。今年度、２５年度から、ミニ運動会みたいなものを市子連さん主催で初めて開催をしていただいた。市の方からも若干サポートはさせていただいたが、そこで煮炊きもして、食事を軽く子どもたちにとっていただいて、ミニ運動会をしていって、大体２００名様ぐらいの参加があった。これは初めての試みで、市子連の方の役員さんの中でもやはり子供会の活動というのをもっと活発化していきたいという強い思いを持っていらして、初めての試みで、広報だけで掲載した状況だが、２００名ということで、また来年度、同じような形で、何かそういう子どもたちがたくさん集まるような機会を市子連さん主催で開催していただくような形で今お話もさせていただいている。

【生川委員】　　それは補助金とかは自治会におりるのか。

【担当課】　　子ども会の主催事業としては、施設を使われたり、施設使用料補助という形をとらせていただいている。市子連さん独自でいろんな施設を使われる場合に、市の協力できる範囲でということになれば、共催事業という形で、実質は市子連さんが全てやっていただくような形になるが、そういった中で、市のできる範囲での支援等はさせていただく。

【竹内委員】　　こういう市民１人でできるということって、市民といっても、各世代によって、子どもとの１つのかかわり方みたいなことがある。私は、北大和に住んでもう２６年になるが、最初は、自分たちの子どもが中高生だったから、子ども会の少し役もしたりしたが、今、年とってくると、今度は学校の行き帰りの見守りとかで、そういうかかわり方はできるが、その当時、何をやったかといったときに、やっぱり子どもを祭りに参加させる、秋祭りには、こうやるとか、そういうときにかかわり方が出てくる、地域のおじいちゃんおばあちゃんと。だから、３世代にまたがるような１つの祭りみたいにして、何かそういうものを作っていかないと、なかなか地域として年寄りがかかわることもできないというような形にもなる。子育てが終わったら、もう子どもに関しては関係ないという、こういう切り離しになるから、地域としてのあり方というのが何か非常に難しいことになる。それから、昔の伝統みたいなものが何かあったら、それをつないでいく、芸能とかそういうものがあればそういうこともあるだろうが、何かやっぱり継承していける、バトンタッチしていけるものの中で１つのものを何か作っていかざるを得ないし、そういうものはこれから必要になってくるだろうなと思う。

【加藤部会長】　　子ども会組織も、例えばＯＢ子ども会組織みたいなのがずっと積み重なっていったらいいが、割と、多分、子ども会で自分の子どもが子どものときだけということで終わってしまう。

【竹内委員】　　それと、学校も全部、生駒市の中でずっといくわけじゃなくて、あちこち行くから、やっぱり成長とともに地域とのかかわり方が非常に少なくなってきて、世界も広がっていくから、なかなかそういうのは難しいなというのがあるが、そこらあたりは、これから成熟社会の中でどういう形で３世代、４世代がという、そこのかかわり方の中で何か作っていかないといけないだろう。だから、恐らく自分の年代とともに意識がどんどん変わってくるので、これを何かでつなぐのが、どこかで共通認識になるものは何だろうというのが、やっぱりこれからのライフスタイルの中で作っていく必要があると思う。

【生川委員】　　どんどこまつりとかでも、見ていたら、何か若い世代の方が同窓会のようにして集まって、みんな浴衣を着て集まる場と。だから、やっぱり年配の方が参加しにくいというのもあると思うし、生駒では、そういう３世代が集まれる何か祭りのようなものというのは、あんまりない。

【加藤部会長】　　ただ、生涯学習ということであれば、そういう年齢共有ができるような祭りの場がどういう形でプランされるのかという。文化活動にも関係してくる。

【竹内委員】　　全部関係してくる。

【担当課】　　どんどこまつりで例をとると、どんどこまつりで、青少年の団体さん、成人式を去年開催していただいた運営委員のＯＢの方で作ったグループが出店もしていただいた。青年協議会あるいはあすなろ会という中高生を中心とした子ども会のいろんな行事にお手伝いなど。あと、子供会さん、市子連さんの方でもどんどこまつりに出店とかしていただいており、子どもたちが一所懸命何か食べ物を提供したりそういう販売の方を一所懸命されているので、そういう交流というのは、どんどこまつりにも１つの意義があったんじゃないかと思っている。

あと、異世代交流の部分では、先ほど申し上げたふるさとミュージアムで、そういう体験学習、工作をするのに、やはり年配の方がそういうクラフト関係とかはお上手で、お孫さんに教えるような形でそういう異世代の交流というのが進んでいけないかと考えている。

③Ｎｏ．２４１　文化活動

【加藤部会長】　　この計画案については御意見をいただきたいと思うんですが、いかが

でしょうか。

【竹内委員】　　これは、さっきの問題も全部関連してくるが、実は、ここの中に引っかかっているのは、生駒らしい魅力の、その生駒らしいというのは、どういうことを想像してるのかというのがちょっと見えない。というのは、今までの高度成長のときにしてきたそういう町のあり方と、もう成熟して、３世代の長寿社会における文化活動というのも当然あるし、市長が唱えているように関西における住宅都市という、この住宅都市で魅力のあるのは何なのか、生駒らしいのは何なのかというのが、これは今のちょうど文化活動が１つのイメージとしては一番大事な問題になってくるんじゃないのかなと思う。ここに生駒らしいと書いてあって、要は生駒らしいというのは具体的に何か持っていのかどうかというのをお聞きしたい。

【加藤部会長】　　これはＮｏ．２４２歴史と伝統文化にも関係すること。

【竹内委員】　　そうなんです。だから、そういうことで、しかもこれが新しい産業とか新しい生駒の市民というのはこういうライフスタイルでやっているとか、全部そういうものに影響してくると思う。それから、将来に対しては、こういう子育てしていきたいということになっていけば､やっぱり教育のあり方にも全部一貫して出てくるような気がする。ここらあたりがちょうど本当にこれから問われてくるんじゃないのかなと思う。今考えていらっしゃる生駒らしい魅力のある文化の創造というのが進んでいるという具体的な中身があればお聞かせ願いたい。

【担当課】　　この特徴って、いろんなものがあると思う。例えば他市さんから視察でよく来られたときの感想としては、自主学習グループの活動というのは、やはり市民の文化活動の本当に他市さんでは例が余りないような形で評価をいただいているし､文化､芸術、芸能関係の芸能協会さんとか芸術協会さんとかがあるが、そういう伝統的な芸能の方の発表をなさるとか、いろんなコンサートとかを含めてなさっておられるのを見ていたら、他市さんから評価いただいているというのは、かなり高いレベルでの活動もなさっていただいている。

歴史についても、共同学習の拠点施設というので、先ほど申し上げた生駒ふるさとミュージアムを開設し、そこを拠点として、情報発信するだけじゃなくて、学校へ出向いてそういう生駒の歴史、文化なんかもＰＲして、できるだけ、郷土愛というか、郷土学習として、生駒にずっと住んで、大人になってからもこの地域に住みたいという子どもたちをやっぱり育んでいきたいなとは考えている。

特に音楽関係とかは、これはもうかなり全国大会で吹奏楽とかあるいは金管バンドとかで金賞なり大きい受賞の方もなさっておられるし、音楽というのもかなり関心が高い、そしてレベルもやはり高いんじゃないかなという。そういった意味で、いこま国際音楽祭という形で音楽コンサート等も開催して進めている。

【竹内委員】　　課題というところの中で、世代による偏りが見られることから市民全体の文化活動を活発化するための世代を越えて成果を発表する場を提供するとともにと書いているが、これで、３世代、４世代で共通するといったら、絵本があると思う。その中には、読み書きから、絵を描く、デザインするとか、それから、ここから出てくるアニメーション、ああいうものの中に映像化できる問題とか、こういう部分というのは、もちろん音楽も全部つながってくるし、そういうものを例えば軸にして、全ての世代がそれにかかわっていくという形の中で、何かこれの日本一みたいなものができると、新しい産業も出てくるんじゃないかなと思う。だから、ただ漠然とじゃなくて、何かこういうものをコアにして、それが末広がりに産業も広がっていくと。そうすると、まちづくりの中に持続のあるということでいけば、やっぱりここでちゃんと働く人がたくさんいて、そして子育てもこの中で全部できるという人たちの集まれる生駒市というのは、未来から考えると、そういうのがあり方としてあるんじゃないかなと私自身は思っている。そういう環境の中で、自然の中でそういうものができる魅力のあるというのは、ビジョンがないと、何かばらばらでやっていてもなかなかうまくいかないというところがあるので、何かそういうのが要る時期じゃないのかなとは思う。

【加藤部会長】　　生駒らしいというのをもう少し具体のものとして書き込むということですかね。

【竹内委員】　　この生駒らしいというのは、どう作っていくのかと。それも含めて、何かあった方がいいんじゃないかと思う。

【加藤部会長】　　ということは、この生駒らしいというとこら辺が、４年後のまちでここに書きぶりがあったとしても、行政の４年間の主な取り組みの中で、生駒らしさである何々ということを高めるという形で書いていくということ。

④Ｎｏ．２４２　歴史・伝統文化

【竹内委員】　　歴史・伝統文化も、同じようなことがいえる。生駒の山自身に歴史があるが、そういうのを本当に生駒市民が全部知っているかといったら、知らない。役の行者

と昔の吉野山と関係しているとか、そんなことも非常にあったりして、もっともっと生駒検定ぐらいするような形で、発掘して知らしめていけるということをもうちょっと具体的にやっていかれた方がいいんじゃないかと思う。だから、やっぱりもっともっと生駒を知らないと、本当に、先ほどの生駒らしいという、伝統技術をやれば、この生駒らしいというのをこれから作っていくのか、そういうものが見えない。

【加藤部会長】　生駒ふるさとミュージアムというのができて、これが、今後、子どもたちに、必ず学校に入ったらここに行くことという形にしてはどうか。このごろの子って、読むとかいうよりも視覚で見てこうかというので分かりやすい、そういった意味では、このミュージアムの指標が２の１で差しかわって、来館者数というのが新しくできていって、それが増えていくということが、一定、生駒らしさをみんな子供たちが理解していくという１つになりはせんかなということになる。

【竹内委員】　そういう像を意識して位置づけが分かれば、非常に僕らも理解しやすい。

【加藤部会長】　ホームページも作られているということなので、このホームページでアクセス数が成果になると思う。こういうホームページであるとかミュージアムの来館者数であるとか。そのためには、そういうボランティアさんがどういう形で何人ぐらい参加してサービスしていただいたのかということでの達成度というので。

あと、そのときにパンフレットを置いておいて、文化とか生駒らしさを知っていただくようなものを置いておいて、そういう生駒らしいものというのを広げていくという１つの発信源として利用できるのではないかという大きな可能性の秘めたものかなという期待はできそう。

市民１人でできることと２人以上でできることで、ここでまた何かもうちょっと書きぶりで増やしていったらいいなという、そこら辺は何か修正というのは？

【竹内委員】　郷土愛の自己意識を高めるといったら、ここを知るということ。生駒市を知らない限りは郷土愛も出てこない。そういう意味では、生駒検定をぜひやっていただきたい。

【加藤部会長】　どこかで、生駒についての知識を得、そして活動するとか、そういったことがどこかに入ればいいと思う。参加するだけではなくて、まず、知識を得て、理解し、活動。

【事務局】　生駒市を知るということで、例えば市民１人でできることとしては、積極的に関心を持っていただくということと、行政側の取り組みとしては、いろんな郷土、歴

史に関する情報提供も今度は行政からもしますというところで、両方の側面をここへ記させてもらっている。

【生川委員】　　多分、若年が郷土愛を持つようにするというのは。なかなかそういう機会に触れることもなければ……。

【加藤部会長】　　これは、だから、ふるさとミュージアムに小学校とか幼稚園ぐらいから行かせて、子どもたちを連れていって、生駒の山ってこんなんだというイメージ化というか、ここはこういう自分たちの町だというのを小さいときから知ってもらうということが学習につながるかなと、そういう意味だと思う。小さいときに行った方が、割と覚えている。

　では、先ほどの議論で、文言が必要であればまた検討していただきたいと思います。

⑤Ｎｏ．２４３　スポーツ・レクリエーション

【加藤部会長】　　サンヨースポーツセンターを購入し、市立の総合スポーツ施設として整備するとあるが、これはどんな施設なのか。

【担当課】　　対象は全市民で、総合スポーツ施設ということで、市民体育館とか総合公園体育館並みの体育館の１つと、それから井出山野球場に匹敵するような芝生のある野球場が１つ、それからテニスコートが２面、それとあわせて、今現在、天然芝のサッカー等をされている大きな競技場がある。大体、面積的に１万６，０００平米なので、北大和グラウンドと大体同規模のグラウンドとなる。それと、それにあわせて、附属の体育館があり、市民総合体育館に匹敵する体育館とサブ体育館があり、現状では宿泊施設が２棟、それとあわせて研修棟が１棟、一応、建物に関しては、体育館を含めまして４棟がある。総面積は、６万５，０００平方メートル、６．５ヘクタール。

【加藤部会長】　　宿泊は何のために？

【担当課】　　健康増進のための三洋さんの宿泊等ができる保養所みたいな形であったので、研修棟というのは、三洋労働組合さんの所有で、それ以外は三洋の健保組合さんの保養所ということで、全国からそちらの方へ来られて、バドミントンであればオグシオさんとかが来られたり、また競技場でしたらラグビーも行われていた。三洋のラグビーが強かった時代もあり、そういう方が来られて、そこへ泊って合宿とかされていたということで、そういう宿泊等もできるということで現状はなっている。

【加藤部会長】　　これ、生駒市民だけのものになるのか。それとも、生駒市が全国のオ

リンピックの人に対しても貸し出すよと、使ってもらっていいよという、そういう。

【担当課】　　オリンピックの今現在そういう話もあるが、ただ、宿泊に関しては、建物が皆古く昭和４７年の建物なので、全て耐震診断をしないと、やはり一般的に貸し出すということは、安全管理の問題もありそれは難しい。また、近隣に、くろんど池の周辺にもくろんど荘という民間の施設もあるので、やはりそれを稼働させるということは民間さんにも影響があり、そこをもし使うとなれば、それは指定管理者さんが使うということであれば、指定管理者さんの方で改修等をしていただいて利用していただくと。ただし、宿泊に関しては、近隣の施設のこともあるので、休憩所的な形とか、研修施設として活用していただいたらどうかと考えている。

【生川委員】　　自炊ですよね。

【担当課】　　その当時は、やはり、厨房にも、料理人さんというか、料理される方もおられたみたいだ。

【生川委員】　　同じ釜の飯を食べるというのは、すごく教育上いいことで、そういうのを子供たちに実践でやってもらったらいいなと思った。

【担当課】　　宿泊は隣のくろんど荘へ泊っていただいて、おっしゃるように自炊もできるし、キャンプもできるところもあるし、そういう建物の方の宿泊もでるので、そういうとこでやっていただいて、スポーツに関してはサンヨースポーツセンターの方でいろいろやっていただければ、十分、競技だけなく、やはり施設的にも広いので、また環境的にもいいところなので、いろんなことができるんじゃないかなとは考えている。

【加藤部会長】　　そしたら、生駒の子だけじゃなくて、奈良県の子は全員使えますよね。

【担当課】　　はい。当然、施設については市外料金等も設置して、市外の方も来ていただける。現状でも、やはり、枚方とか大阪府下のサッカークラブとか、たくさん来られているということで、今現在は、三洋がパナソニックの傘下に入ったので、パナソニックさんの紹介がないと使えないということで、９割以上は、三洋というか、パナソニックさんの紹介の方ばかりで、一般の方はほとんど利用されていない。それと、土日がほとんどですので、年間１００日余り。平日の利用はほとんどないということは聞いている。年度で７，０００人余りぐらいの利用者とは聞いている。今後は、北大和体育施設を廃止して、そこの移転、拡充ということでサンヨーを購入するということになっている。

【加藤部会長】　　１つを閉じて？

【担当課】　　はい。今ある北大和体育施設については、特に町の中の体育施設なので、

やはり交通状況、環境等、交通事故等がいつ起こってもおかしくないような、ちょっと入り口の狭隘なところもあるので、そこを閉めて、それをより充実した形でサンヨーを改修していきたいなと今考えている。

【竹内委員】　　このサンヨースポーツ施設の事業計画みたいなものはこれから作成するのか。

【担当課】　　大体、改修については内部の方では作っており、この２６年度予算には改修経費等を上げていきたいと思っている。改修内容も大体は固まりつつある。

【加藤部会長】　　ぜひバリアフリーで、オリンピックでも今言われているみたいに、障がい者と高齢者が使えるようにという、そうですよね。

【担当課】　　はい。

【加藤部会長】　　多分、昭和４７年度ぐらいやったらバリアフリーのことを考えていない。

【担当課】　　そうですね。

【加藤部会長】　　だから、そういう、ちゃんと、車椅子であるとかつえをついていても、もちろん視覚とか聴覚で、視覚の方とかを含めて利用しやすいようなものができたらいいなとは思う。

【担当課】　　それも含めて改修は予定している。

【生川委員】　　これは、救急対応とかはちゃんとできているのか。ＡＥＤとか、そういうのは設置しているのか。

【担当課】　　ＡＥＤはある。実際は指定管理者による管理ということで予定しているので、確かに今の消防署からしたら、一番遠くはなるのでその辺はちょっと危惧するが、信号もない大きな道なので、そのあたりは問題ないかと思っている。

【加藤部会長】　　利便性はあるのか。

【担当課】　　ここから北大和体育施設へ行くのと比べたら、１０分余りの差なので、北大和から直接行っても１５分余り。国道１６３号から向こうは、信号が学校のとこ１つだけなので、町なかを走るよりは結構早く着けると思う。また、土日に関してはバス等のこともちょっと今検討している。ただ、スポーツされる方はほとんど車の方が多いので、現在、北大和体育施設以外は、全て、町はずれというか、山のふもととか山の頂上にある施設が多いので、そばまで路線バス等が走っているところもあるが、スポーツのクラブ、荷物、道具とかの関係も用具とかの関係もあり、やはり車で来られる方がほとんどである。

【加藤部会長】　　ただ、お年寄りにしても障がい者にしても、そういう行きやすいような工夫というのがやっぱり必要かと思う。

【生川委員】　　生駒は南と北に細長い地形なので、そこにお年寄りが行くように、シャトルバスとかそういうのは出ていないか。

【担当課】　　今はないが、催し物、大きな大会となれば、シャトルバス等は、今も現に市民体育大会には出させていただいているので、そういう大きな大会には当然そういうことも考えていかないといけないとは考えている。ふだんにそういうのは、乗るか乗らないかは分からないところもあるので、それについては、土日だけ、ちょっと路線バスの延長で、運賃の負担はしていただかないといけないことにはなるが、延長も考えている。

【加藤部会長】　　ここでも、１人でできることと２人でできることということですけど、これも、どうですかね。

【竹内委員】　　難しいですね。

【加藤部会長】　　難しいですね。

【竹内委員】　　スポーツをやらない人には関係ない。

【加藤部会長】　　そうですね。地域におけるスポーツ推進組織を設立する。地域スポーツの推進と団体相互の交流を行う。これ、自主的にクラブを作ってサッカーをやっている人とかね。市民レベルで、今、サッカー人口、多いですよね。

【竹内委員】　　だから、使える日がやっぱり土日、平日はできないので、平日の稼働率というのはあんまり期待できないし、それから観客動員数をやるということで試合をするものでもプレーをするものでもないし。だから、やっぱり練習とかトレーニングの場だと思う。

【加藤部会長】　　研修の場みたいな形で貸し出すとかね。

【竹内委員】　　だから、やっぱり研修所なので、元々がそういうものなのだと思う。だから、もう少し、合宿型とかで、スポーツアカデミーとか、ここへスポーツでけがした人が治しに来れるとか、何かそういう中間に使えるものが１つあって、それの傍らに土日なら土日に使うとか、そういう方法を考えないと、投資効率の問題を考えたら、そういう部分も要るかなと思う。

【担当課】　　そこは、生涯スポーツの拠点ということでサンヨースポーツセンターは考えているので、管理部門も、指定管理者による管理だが、その傍ら、総合型地域スポーツクラブさんに事務的な事業をしていただいて、常にそういうスポーツをされない方に来て

もらうとか、そこへ、プロの、例えばバスケットボールのバンビシャス奈良さんとかか、奈良クラブのサッカーとかの練習等をしていただいて、そこへ家族の方と子どもさん、お孫さんと一緒に来てもらうとか、そういう形で食べ物をしたりプロの感動を見られるような形で動機づけを行い、誰でもが行けるようなものを目指したい。また、この施設については、桜の木が３００本ぐらい植わっており、春には桜がたくさん咲く場所なので、誰でも行けるような、その中でそういうスポーツ環境にしながら、またスポーツに興味を持っていただける生涯スポーツの拠点ということを考えている。

【生川委員】　　スポーツトレーナーとかもいらっしゃるのか。

【担当課】　　スポーツトレーナーというか、指導者は、指定管理者さんの中にはそういう方もおられるので、いろいろな講座、教室を行っていただいて、誰でも行けるような形でとは考えている。今は特に高齢者の方だったら介護関係とかいろいろあるので、そういうのも一緒にやっていけばいいんじゃないかなとは考えている。スポーツに限らないで、一般的な福祉の分野とも協働しながら、タイアップしながら来ていただければと思う。

【加藤部会長】　　どういうニーズがあるかという、そのニーズ調査が重要で、高齢者の人なんかでお花見に行きたいというのとか、ちょっとスポーツをしたいとか散歩をしたいとか、そういういろんなことを世代も違えてニーズ調査をして、それで絶えずそのグラウンドが使ってもらえるような形でにぎわわないと、ちょっと寂しいことになってしまう。

【担当課】　　グラウンドの中にもジョギングコース的なものも設けて、また、結構、通路も広く､総合的なスポーツ施設なので､通路の幅とか施設同士の間にも結構距離があり、その辺、散歩もできるし、ジョギングコースについても開放なりして、市民の方に利用していただけたらなとは考えている。

【加藤部会長】　　メンテナンスも大変だろうし。そういう費用的なこととか全部トータルしてやっぱりやっていかないと大変なんでしょうと思う。

【担当課】　　費用も、できる限りコストを抑えた形でとは考えている。

【加藤部会長】　　だから、ある程度稼働していけば、そういうスポーツをする人とか、どうして利用するかというとこら辺で周知徹底していくという、広報のことも、今後、必要になってくるだろうし、ホームページなんかでこういうどんどんと取り上げたら、そこで情報を得ていけるし、今どんな形で貸しグラウンドとかいうのも、あれも全部登録制でやっていったら、割と埋まっていくところもあるのかなと思うので、そういう工夫を多分していかないといけないのかなと思う。

【担当課】　　現状でも、ホームページ等、総合型地域スポーツクラブの情報等は流しているし、あわせて、広報紙でも、紙媒体でも載せさせていただいて、より市民の方に参加していただきやすい形はとっている。今後も続ける予定をしている。体育の日は無料とか、そういうことも検討している。

【加藤部会長】　　市民2人以上でできることに、スポーツ推進組織を設立するという、記述があるが、これはどういうことか。

【担当課】　　体育協会といったら大層かも知れないが、自治会内の体育協会というのもあるので、そういうところへ入っていただいて、そういう指導者の方を派遣するということも十分可能なので、２人で作っていただいて、またいろいろ指導を受けることによってスポーツに親しんでいただけるということも考えている。

【加藤部会長】　　では、そういうことでよろしいでしょうか。

今日は、皆さんからの御意見を受けて、生駒らしいということの議論もあって、これもまた私たちがトータルでも考えていかないといけない、具体って何かなという、そういう大事なことも話題に出た。修正は若干出てきたところもあるので、それは、少し、今度、次回また考えていただくということで、今日は案件としては終了させていただきます。